

プラスチックごみ削減のために

軽くて丈夫という利便性から広く使われるようになったプラスチック。生産量は50年間で約20倍に増え、今や世界で年間約4億トンにもなる。用途の3割以上は包装容器などの使い捨て製品だ。投棄されて海に流出した「海洋プラスチック」は、優れた安定性ゆえに自然には分解されず、海流に乗って世界中に拡散されている。このままいけば2050年に、海は魚よりもごみの方が多くなるとも予測される。そこで環境中に流出しても、最終的に二酸化炭素（CO₂）に分解される「生分解性プラスチック」の需要が高まっている。今世界が手をたずさえて自然界に残留するプラスチックごみを減らし、環境負荷の少ない循環型社会の構築へと歩み始めている。